



## 留学生を激励 虎と龍の塗り絵を贈呈

「リサイクル留学生プロジェクト」でインドネシア(バリ州)から本町に留学している2名に、7月25日(火)、曾於市在住の大川内敏文さんから、虎と龍の絵が贈られました。

これは、同プロジェクトの取り組みを知った大川内さんが「遠い地から決断して大崎町に学びに来たことに感銘を受けました。学んだことを郷土で頑張って取り組んでほしい」と激励として贈ったものです。

受けとった2名は「宝物になります。大崎町で勉強して、バリがきれいな町になるよう頑張ります」と感謝と意気込みを話されました。



## SOSの出し方について小学校で講話

7月14日(金)、大崎小学校において、5・6年生を対象に「SOSの出し方教室」がおこなわれました。

これは、本町の地域自殺対策強化事業の一環として開催したもので、中央大学人文科学研究所 客員研究員の高橋聡美先生をお招きし「自分と相手を大切にするために」というテーマでお話をいただきました。先生は、さまざまな環境の変化が心の痛みとなる場合があるとし、「心の痛みに気付くことが大切で、身体の傷は見えるが、心の傷は見えないので、言葉に出して伝えてください」「心配してくれる大人は必ずいるから大人に伝えてください」など話され、児童は真剣な表情で聞いていました。



## シアトルでたくさん学びます！ 青少年・一般海外派遣事業出発式

7月21日(金)、「大崎町青少年・一般海外研修派遣事業」の出発式がおこなわれました。これは、夏休み期間を利用し、アメリカのシアトル市で約1か月間の研修をするプログラムです。新型コロナウイルスの影響で4年ぶりに実施されました。

今回参加したのは、大野<sup>あいの</sup>亜李音さん(志學館高等部2年生)、清水<sup>ゆうしん</sup>悠心さん(志布志高等学校2年生)、嶽野<sup>ひな</sup>妃那さん(尚志館高等学校2年生)の3名です。大野さんは出発式で「積極的にコミュニケーションを取りたい。考え方の違いに触れ、自分に必要な考え方を学びたいです」と話してくれました。

3名は7月22日に出発し、8月15日に帰国しました。



## 感謝の気持ちを込めて絵本の寄贈

7月21日(金)、おおすみハナマルシェ実行委員会から大崎の子どもたちに絵本の寄贈がおこなわれました。

これは、イベントなどを通して大隅の魅力をアピールしている同実行委員会が、地域への感謝を込めて、大隅の子どもたちのために、イベント収益の一部で大隅半島4市5町に5冊ずつ寄贈したものです。

いただいた絵本は町立図書館で借りることができます。

